

モスクワ三月会議を評す

1965. 3. 23



外文出版社
北 京

モスクワ三月会議を評す

『人民日報』編集部

『紅旗』誌編集部

(1965年3月23日)

外文出版社

北京

目次

- (一) これはいつたいどういう会議か…………… 5
- (二) ソ連共産党の新しい指導部はどんなことをやったか…………… 11
- (三) いくつかの問題に答える…………… 23
- (四) マルクス・レーニン主義と革命の軌道の上に団結しよう…………… 29

モスクワ三月会議を評す

『人民日報』編集部
『紅旗』誌編集部

(一九六五年三月二十三日)

(一) これはいったいどういう会議か

ソ連共産党の新しい指導部がフルシチョフの衣鉢をうけついでデッチあげた分裂会議は、つい
に一九六五年の三月一日から五日にかけて開かれた。三月十日には、「モスクワでひらかれた共
産党・労働者党代表者協議会議についてのコミュニケ」なるものが発表された。

ソ連共産党指導部はありつたけの力をかたむけ、おどしたりすかしたりしながら、かきあつめ
られるだけかきあつめて、てんでんばらばらの会議ではあるが、とにかく一応は開くまでにこぎ
つけた。この会議はいかにもうらさびしく寒々とした空気に包まれていた。それはじつにちつぽ
けな分裂の会議であり、まったくぶざまな会議であった。

モスクワの分裂会議に参加したのは、ソ連のほかは一五の党の代表とオプザーバー、それにオーストラリアとブラジルの分裂して出ていった二つの修正主義派、はてはその名を世にとどろかせている裏切り者ダンゲ一味までが頭数をそろえるためにかり出され、あわせて一九というところになった。

ソ連共産党指導部の命令でこの会議に参加するよういつけられていた二六の党のうち、アルバニア、ベトナム、インドネシア、中国、朝鮮、ルーマニア、日本など七つの兄弟党はこの分裂会議に参加することを断固拒絶した。オーストラリア、ブラジル、インドのマルクス・レーニン主義的兄弟党も、こんどの分裂会議を非難し、これに反対した。

分裂会議に参加した一九の単位についていえば、それらも、やはり、まったく矛盾だらけで、四分五裂の有様であった。それらのなかには、フルシチョフの修正主義と分裂主義を心底から擁護しているものもおれば、フルシチョフの修正主義と分裂主義を擁護するのに気乗り薄のものもあり、口には出せない苦しみをいさながら命令されてしぶしぶ太鼓もちをつとめたものもある。またなかには、おそらく無邪気な考えから一時ワナにひつかかったものもあるだろう。

こんどのあつまりが、ほかでもなくフルシチョフが一九六四年七月三十日付の書簡のなかで、

一九六四年十二月十五日に開くよう命じた例の不法な分裂会議であることは、誰も否定することができない。

いったいなんの根拠があつて、そんな口のきき方をするのか？ ソ連共産党の新しい指導部は会議開催の日どりをのびしたではないか？ 起草委員会という名称を協議会議に改めたではないか？ コミュニケのなかには、団結して敵にあたるなどといったまともなことが言われているではないか？ とたずねる人もあるだろう。

うわべから見れば、たしかに、ソ連共産党の新しい指導部は小手先をもてあそんで、いくらか変更をくわえており、フルシチョフのもとの胸算用どおりにはこばなかつたところもみられる。しかし、その本質から見れば、ソ連共産党の新しい指導部はフルシチョフの修正主義と分裂主義の衣鉢をそっくりそのままうけついでおり、フルシチョフが下した分裂会議開催の命令をじつに忠実に実行したのである。つぎにあげる事実をみていただきたい。

ソ連共産党の新しい指導部は、兄弟党の国際会議とその準備会議はどうしても、フルシチョフが一九六四年七月三十日に開催するよう命じた不法な分裂会議とつながりをもたせなければならぬと再三にわたってわれわれに言明していた。

一九六四年十一月二十四日にソ連共産党中央委員会が中国共産党中央委員会にあてた書簡のな

かでも、それと前後してソ連共産党中央委員会がその他の兄弟党にあてた書簡のなかでも、また、一九六四年十二月十二日付のソ連の「ブラウダ」紙にのつた「共産党・労働者党国際会議を準備する起草委員会の開催についての通告」のなかでも、ソ連共産党の新しい指導部は、一様にフルシチヨフの下した命令をくりかえしている。かれらは、兄弟党国際会議の準備会議は、かならずソ連共産党指導部の決定した例の起草委員会を基礎にしてすすめるなければならないといつてがんばっている。しかも、「起草委員会の開催を主張する兄弟党には起草委員会の会議の実際的な準備活動にとりかかる権利がある」という結論に達したといっている。

かれらはやはりフルシチヨフの命令どおりに、あのとつくに存在しなくなった一九六〇年の起草委員会の二六の党——それもきっかり二六の党——にしか会議の通知を出さなかった。

かれらはやはりフルシチヨフの命令どおりに、参加しない党がどれだけあつても会議は開くといつた。案の定、少なからぬ兄弟党からの断固とした反対にあい、参加を拒絶されたにもかかわらず、やはりかれらは開いた。

かれらが会議の日どりをのばしたのは情勢にせまられたからにすぎない。しかし、かれらはあいかわらず親父の党が命令するやり方で、一九六五年三月一日に会議を開くときめた。はたしてかれらはこの日に開いた。

かれらはまた、開会の下タンバになつて会議の名称を変更し、それに「協議会議」という衣をまとわせた。だが、「協議会議」という名称に改めたからといつて、フルシチヨフが開催を命じた例の分裂会議の性格が変わつたわけではない。

これから見てもあきらかなように、ソ連共産党の新しい指導部はじつにたくさんの手口を使ひ、あれこれと手をかえ品をかえてはいるが、しかし、売りさばっているものはあいかわらずフルシチヨフのふるくさいしるものである。どつちみぢぢのねらふとするところは、いくらかごまかしの色をつけ、人びとをたぶらかして会議に参加させ、親父の党としてのかれらの地位を認めさせ、今日はこうやり明日はああやるというふうな指揮棒をふりまわす権利を認めさせ、かれらのしり馬に乗つてフルシチヨフの修正主義と分裂主義の死地におもひかせようといふことにすぎないのである。

問題はひじょうにはつきりしている。もしもソ連共産党の新しい指導部が、フルシチヨフの使ひふるした手口をうけついで、うわべは団結となえ、実際には分裂をやるという陰謀をもてあそぶのではなしに、ほんとうに団結をしようというのなら、なぜフルシチヨフが一九六四年七月三十日に下した命令をなげすてしまわなかつたのか？ なぜまた一九六四年十一月二十四日付の書簡などをもち出したのか？ なぜ兄弟党の勧告を受けいれて例の不法な分裂会議をやめ、新

規まきなおしをして、あらたにでおそうとしなかったのか？

フルシチヨフが失脚したのだから、もしソ連共産党の新しい指導部フルシチヨフ修正主義をあくまでおしとおそうとするのでなければ、本来ならこの絶好の機会をとらえて、分裂会議の開催をやめるの手ははじめとして新しい基礎のうえに意見の相違をとりのぞき、団結を強めるといふ願ひをもつようになったと、十分に表明できたはずである。われわれは、ソ連共産党の新しい指導部がこのすばらしい機会を利用して、われわれやその他のマルクス、レーニン主義政党といっしよになつて、意見の相違をとりのぞき、団結を強めるための新しい道をさがしもとめるよう心からのぞんでいた。

ところが、われわれがえたのはどんな回答であつたらうか？

一九六四年の十月革命記念日に

中国の党と政府の代表団がモスクワでソ連共産党の新しい指導部と接触したさい、ソ連共産党の新しい指導部は自分たちは国際共産主義運動の問題、中国にたいする問題については、フルシチヨフとなら違わないとはっきり表明した。かれらは不法な分裂会議を開催する立場を頑固にとりつづけた。それどころか、フルシチヨフじしんがやりとげられずに残していった分裂会議の計画がその後継人の手で実現されたのである。

いまや人びとはいっそうはつきりとつきのことを見てとることができるようになった。つま

り、ソ連共産党のこの新しい指導部の連中がフルシチヨフをどうしても追いつきなければならなかつたわけは、なにもかれらがフルシチヨフとの間になんらかの原則的なちがいがあつたからではなくて、フルシチヨフのしでかすことがあまりにも鼻もちならなくなり、いちぶのやり方があまりにも愚かなので、ご本尊のフルシチヨフじしんがすでにフルシチヨフ修正主義をおしすめてゆくうえでの大きな邪魔物になつてしまつたからだということである。かれらがフルシチヨフをとりかえたのは、看板をぬりかえ、もつと巧妙な手口を使い、もつと欺瞞的なみせかけをつかつて、フルシチヨフ主義をもつとりつばに遂行し、発展させ、フルシチヨフがソ連共産党第二十回大会でうちだし、ソ連共産党第二十二回大会で体系化し、ソ連共産党綱領の形で固定化した修正主義、大国排外主義、分裂主義の総路線をもつとりつばにおしすすめようとするものにはかならない。

(二) ソ連共産党の新しい指導部はどんなことをやつたか

このところ、ソ連共産党の新しい指導部は体裁のいい言葉をだいた口にしている。今度の分裂会議のコミュニケでも、「帝国主義に反対する」だの、「アメリカ帝国主義に反対するベトナム

を支持する」だの、「民族解放運動を支持する」だの、「各国人民の革命を支持する」だの、「団結して敵にあたる」、「共同行動をとる」だのといたたえらく聞こえのよい、心にもない言葉をたくさんひろいあげてならべたてている。ソ連共産党の新しい指導部は、マルクス・レーニン主義者がかかっているあれこれのスローガンをそのままもらいつけて、一種の仮象をつくりあげ、あたかもかれらがすでに変わったかのような、もうフルシチョフの修正主義や分裂主義とは違うかのようなみせかけをしようとしている。

こういった状況は、アメリカ帝国主義がソ連共産党指導部のいくつかの主だったスローガンをそのままもらいつけているのとなんと似かよっていることだろう！
 現に、フルシチョフの平和共存、平和競争、平和移行、緊張緩和、全面的完全軍縮、二大国が世界を牛耳る、共同してインドを援助する、共同して各国反動派を支持する、共同で国連を利用して世界各地の革命運動を弾圧する、共同して中国に反対する等々といったスローガンや陰謀計画は、そつくりそのままアメリカ帝国主義によつてつかわれている！
 ソ連共産党指導部はアメリカ帝国主義にすつかり熱をあげ、たがいに情報をつりかわし、共同して共産主義に反対し、人民に反対し、革命に反対し、民族解放運動に反対して、共同して帝国主義、修正主義、各国反動派を守り、世界のすべての革命家に反対している。だが、われわれはアメリカではない、われわれはマルクス・レーニン主義

者である。われわれは、どうしてもソ連共産党の新しい指導部のこうした陰謀・奸計をあばきたさないうけにはゆかない。

マルクス・レーニン主義はわれわれにつきのように教えている。一つの政党を判断するには、ひとりの人間を判断するのと同じように、「その口さきによらずにその行動により、かれが自分でこうであると称するところによらずにかれのなすところ、またかれが現実にあるところによつて判断すべきである」①歴史上の闘争ではなおさら諸党派の慣用語および想像とその実際の姿および実際の利益とのあいだ、つまりその党派の観念と現実とのあいだには区別がつけられねばならない②

この原則にもとづいて、ソ連共産党の新しい指導部がフルシチョフの失脚以後どんなことをしでかしてきたかを見てもことにしよう。そうすれば、ソ連共産党の新しい指導部の口にする聞こえのよい言葉がみな、羊頭をかかぎて狗肉を売るものでしかないということがいつべんにわかる。かれらの言っていることと、やっていることはまったく裏腹である。このことから、われわれはまた、このコミニケの中のいくつかのスローガンのもつ真の意味を知ることができる。

① エンゲルス「ドイツにおける革命と反革命」『マルクス・エンゲルス選集』第四巻上
 ② マルクス「ルイ・ボナパルトのブリュメール十八日」『マルクス・エンゲルス選集』第五巻下

コミユニケは、「共産主義運動における意見の相違は、その団結を弱め、世界の解放運動と共産主義の事業に損害をもたらしつつある」とのべている。それなら、おたずねしたい。意見の相違は、いったいどこから生まれてきたのか、いったいなにが国際共産主義運動の団結を弱め、各国人民の革命に損害をもたらしているのか？ と。それはひじょうにはつきりしている。つまりソ連共産党第二十回大会、ソ連共産党第二十二回大会およびソ連共産党綱領に集約されたフルシチョフ修正主義にはかならない。マルクス・レーニン主義とフルシチョフ修正主義とのちがいは、マルクス・レーニン主義をまもるか、マルクス・レーニン主義に反対するかとの二つの道のちがいであり、プロレタリアートとブルジョアジーとの二つの敵対する階級のちがいである。いま、ソ連共産党の新しい指導部のおしすすめているものが、あいかわらずフルシチョフのいわゆる「平和共存」「平和競争」「平和移行」「全人民の国家」「全人民の党」というまとまった修正主義の総路線である以上、それはただ、ソ連共産党の新しい指導部があれいかかわらず意見の相違を深め、団結を破壊して、国際共産主義運動に新たな損害をもたらしていることを物語るだけである。

コミユニケはまた、「各国共産党を結びつけているものの方が、当面それを切り離しているものよりもずっと力が強い。協議会議の参加者はそういう確信を表明した」とのべている。これは、まったく心にもない言い草であり、国際共産主義運動を公然と分裂させるソ連共産党の新しい指導部のふるまいに薄化粧をほどこそうとするものである。

フルシチョフ修正主義がまだその萌芽状態にありその発展過程にあつたころ、われわれはひたすら団結の願いから出発し、忠告と批判の態度をとつて、フルシチョフが改心するよう希望していた。われわれはかつて、マルクス・レーニン主義的兄弟党のあいだでは、共通点が基本的なものであつて、意見の相違は局部的なものであるから、異なる点はそのまゝにして、共通点を求めるべきである、となども指摘してきた。しかし、こうした言葉はフルシチョフのようなやからの耳には入らなかつた。かれらは、たえず意見の相違を拡大して、修正主義の道をますます遠くつつ走り、まとまった修正主義の総路線と内外政策をつくつて修正主義の綱領をまとめあげた。

こうして、意見の相違の性質ははつきりと、マルクス・レーニン主義の総路線と修正主義の総路線との根本的な対立になつてしまつた。それだけではない。フルシチョフはまた、分裂会議開催の命令を下し、さらに一歩すすめて組織の面からマルクス・レーニン主義者と修正主義者を対立させ、国際共産主義運動をいちだんと分裂させた。

フルシチョフの失脚後、われわれはソ連共産党の新しい指導部に期待をかけ、かれらが国際共産主義運動の共通の利益から出発して、フルシチョフ修正主義を投げ捨て、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義の立場にたちもどるようのぞんでいた。ところが、ソ連共産党の新

しい指導部は、フルシチョフのまとまった修正主義の理論、修正主義の総路線、修正主義の政策をあくまで固執しつづけるどころか、国際共産主義運動の問題、中国にたいする問題では、かれらとフルシチョフとのあいだにはいささかの違いもないとおおつびらに言明した。かれらはまた、一切をかえりみず、分裂会議の開催という重大な措置をとった。事態はひじょうにはつきりしている。ソ連共産党の新しい指導部は各国共産党を結びつけている基礎をいっそうぶちこわしてしまつたのである。われわれは聞きたいものである。このような状況のもとで、かれらが「各国共産党を結びつけているものの方が、いまそれを切り離しているものよりもずっと力が強い」などとわめき立てていることは、みずからの修正主義と分裂主義の本質をおおいかくすためのものだという以外に、いったいなにがあるというのだろうか、と。

ソ連共産党の新しい指導部は、われわれは「共同して敵にあたる」、「統一行動をとる」ことのできるなどと言っているが、これも人をあざむくものである。そもそもフルシチョフ修正主義の重要な特徴の一つは、敵味方の関係をまったくあべこべにしていることである。いま、ソ連共産党の新しい指導部は、ひきつづきフルシチョフ修正主義をおしすすめ、あいかわらず全世界人民の共同の敵アメリカ帝国主義を自分の友とみなし、全世界のマルクス・レーニン主義者と革命家を自分の敵とみなしている。これで共同して敵にあたり、統一行動をとるなどと言えたものだろうか。

ろうか。

まずここで、ソ連共産党の新しい指導部が登場していろいろ、アメリカ帝国主義にたいしていったいどんな政策をとってきたのか、それを見てみることにしよう。

ひと言でいえば、ソ連共産党の新しい指導部は、ソ連とアメリカが協力して世界を牛耳ろうというフルシチョフの反動政策を性こりもなくとりつづけているのである。かれらは、ソ連とアメリカの間には「ひじょうにひろびろとした協力の天地」がひらかれているときかんに宣伝し、アメリカ強盗の親玉ジョンソンを「良識派」だとして大いにもちあげ、アメリカ帝国主義をいっしょうけんめいに紅白粉で飾りたてている。

ソ連共産党の新しい指導部は、アメリカ帝国主義と取り引きをするとき、フルシチョフのようになさわざたりはしない。だが、かれらはなかなかの「実行家」である。ソ連共産党の新しい指導部は登場するとまもなく、大いそぎで、アメリカ帝国主義との間にかんりの取り引きをまとめた。そのなかのいくつかは、フルシチョフが指導していたころ長いあいだ話のつかなかかったものである。とくに注目すべきことは、アメリカが国連の名をかたつてコンゴに武力干渉した経費を、ソ連共産党の新しい指導部が、なんと義捐金という名義で支払うことに同意したことである。かれらはまた、アメリカが国連の「平和維持行動特別委員会」を利用して常設の国連武装部

隊をつくり、それをアメリカ帝国主義が各国人民の革命を鎮圧し、もみ消すのに奉仕させるのを積極的に支持している。かれらは、アメリカと懇意にし、アメリカに媚び、アメリカに降伏するフルシチョフの政策をうけついでいる。

世界革命のあらしが吹きまくっている主な地域アジア、アフリカ、ラテンアメリカでは、反米前線における革命闘争のいずれにたいしても、ソ連共産党指導部は、あらゆる手を打ってつねにこれらをソ連とアメリカとの話し合いによる「問題解決」の軌道にくみ入れようとしている。現在、ソ連共産党の新しい指導部は、南ベトナム人民の革命闘争を支持するとわめきたてているが、実際には、それはアメリカ帝国主義と取り引きをするための政治資本を手に入れるため、「平和交渉」の陰謀をめぐらし、アメリカ帝国主義とその手先に反抗する南ベトナム人民の革命闘争を葬りさろうと夢みているのである。

アメリカ強盗がベトナム民主共和国にきちがいじみた爆撃をおこなっているというとき、社会主義陣営諸国と全世界の革命的人民は、当然団結してアメリカ侵略者とまっとうから闘わなければならぬはずである。ところが、ソ連共産党の新しい指導部は分裂会議の開催をあくまで実行にうつし、重大な分裂の措置をとって、アメリカ帝国主義のお先棒をかついだ。かれらはこの分裂会議の名で、アメリカ帝国主義のベトナム侵略に反対する声明を発表したが、そのこと自体、

なによりの諷刺である。この声明が出されてから二四時間とたたないうちに、ソ連共産党の新しい指導部は、モスクワで軍隊と警官、騎馬隊をくり出し、学生の反米デモに野蛮な弾圧をくわえて流血事件をひき起こした。そのうえ、反米闘争に参加したこれらの外国の留学生にたえず迫害をくわえた。その一方では、ソ連政府はアメリカ帝国主義に鼻もちならぬ卑屈な態度で大急ぎでわびを入れた。

ソ連共産党の新しい指導部は、自分じしんの行為で自分じしんのペテンをあばきだし、全世界の前に、かれらの正体をさらけだした。つまり、かれらのほこ先は、アメリカ帝国主義とその手先に向けられているのではなく、帝国主義とその手先に反対する各国の革命的人民に向けられているということである。

見たところ、ソ連共産党の新しい指導部とアメリカ帝国主義とを「結びつけているもの」こそますます大きくなってゆけばかりで、まったく切っても切れない間柄になっているようである。このままどんどんすすめば、かれらとマルクス・レーニン主義者とを切り離しているものがますます大きくなる一方、「結びつけているもの」がますます小さくなっていくほかないのは、あたりまえのことである。

ではつぎに、ソ連共産党の新しい指導部が兄弟国と兄弟党にたいして、いったいどんな政策を

とつてゐるかをみてみよう。

ひと言でいえば、ソ連共産党の新しい指導部は、中国に反対し、アルバニアに反対し、日本共産党に反対し、インドネシア共産党に反対し、ニュージラント共産党に反対し、マルクス・レーニン主義を堅持するすべての兄弟国と兄弟党に反対するフルシチョフの政策をとりつづけているのである。

ソ連共産党の新しい指導部はいかかわらず、一九六三年七月十四日付のソ連共産党中央委員会の公開書簡と、一九六四年二月のソ連共産党中央委員会総会でのスースロフの反中国報告およびこの報告についての決議のなかのすべての観点をかたくなに固執している。かれらは、いままもなく、全党と全人民にこれらの反中国資料を大々的に学習させている。このことはつまり、かれらがフルシチョフの反中国、反共の倉庫のなかからポロポロでつかいものにならなくなっている武器をそっくりそのままひきついでいることを意味している。そのうえ、かれらはまた、インド反動派の反中国活動をあらゆる面から支持しつづけている。

ソ連共産党の新しい指導部は、フルシチョフがソ連共産党第二十二回大会とこの大会の前後にアルバニアにたいしてとつた一連のあやまった政策を頑迷にとりつづけている。

ソ連共産党の新しい指導部はひきつづき、フルシチョフが社会主義兄弟国にたいしてとつた大国外主義をおしすすめ、支配政策を實行している。

ソ連共産党の新しい指導部はひきつづきフルシチョフの政策をとり、なにはばかることなく、兄弟党の内部問題に干渉し、兄弟党にたいして破壊・顛覆活動をおこなっている。かれらはまた、まえから日本のトロツキスト、右翼社会民主主義者、日本共産党の裏切りものと結託して、マルクス・レーニン主義を堅持する日本共産党にたいし、さまざまな破壊・顛覆活動をおこなっている。かれらはまた、新聞、雑誌に文章を発表して、日本共産党を攻撃し、公然と志賀、鈴木、神山らのひと握りの裏切りものを支持している。かれらはインドネシアのトロツキストとその他の反革命勢力を支持し、マルクス・レーニン主義を堅持するインドネシア共産党に反対し、インドネシアの反帝民族統一戦線を破壊している。かれらはマルクス・レーニン主義を堅持するニュージーランド共産党を攻撃し、ニュージーランド共産党の指導部をくつがえそうとたくらんでいる。かれらは、マルクス・レーニン主義を堅持するビルマ共産党とその他の兄弟党にたいして、さまざまな破壊・顛覆活動をおこなってきた。

ソ連共産党の新しい指導部はひきつづきフルシチョフの政策をとり、インド労働者階級の裏切りもの、インド大ブルジョアジーの手先ダンゲン一味をけんめいに支持し、この裏切りもの一味がおしすすめている反共、反人民、反革命の活動を極力支持している。

これを見ても、ソ連共産党の新しい指導部の口にして「共同して敵にあたる」というのは、いったいだれにあたるのか、かれらの口にして「統一行動をとる」というのは、いったいなにをしようというのかがわかる。また、かれらは、けっして兄弟党を結びつけるものを拡大しようとしているのでなく、ひきつづき、やっきになって兄弟党を切り離すものを拡大していることがわかる。

「連の事実が証明しているように、ソ連共産党の新しい指導部がアメリカ帝国主義反対をわめきたてているのはウソであつて、アメリカ帝国主義に降伏することこそ、かれらの本質なのである。アメリカに反対すると声明を発表しているのはウソであつて、反米闘争をおこなっている人民大衆を弾圧することこそ、かれらの本質なのである。革命を支持するというのはウソであつて、革命を破壊することこそ、かれらの本質なのである。」「團結して敵にあたる」だの、「共同行動をとる」だのといった言い草はすべてウソであつて、いたるところで團結を破壊し、分裂をつくりだし、はては国際共産主義運動を公然と分裂させる會議を開くことこそ、かれらの本質なのである。

要するに、ソ連共産党の新しい指導部がやっているのは三つのウソと三つの眞実である。つまり、ウソの反帝と眞の降伏、ウソの革命と眞の裏切り、ウソの團結と眞の分裂がそれである。か

れらが実行しているのは、依然として、四つの連合、四つの反対というフルシチョフの使ひふるしの一連の口口である。つまり、帝国主義と連合して、社会主義に反対すること、アメリカと連合して、中国その他の革命的な国々に反対すること、各国の反動派と連合して、民族解放運動や各国人民の革命に反対すること、チトー一味やさまざまの裏切り者と連合して、すべてのマルクス・レーニン主義的兄弟党や帝国主義とたたかうすべての革命派に反対することである。

(三) いくつかの問題に答える

モスクワ分裂會議のコミニケは、公開論争の停止といった使ひふるし文句をむしかえし、「今度の會議に代表をおくつた各党は、兄弟党にたいする非友好的、侮辱的な性格をもつ公開論争の停止を主張することを表明した」などと言っている。つづいて、「これらの代表たちは、互いに攻撃をおこなわず、同志的なやり方で、ともに関心をよせている現代の重要な問題についてひきつづき意見を交換することは有益なことであると考へている」とのべている。

コミニケは、ほかでもなくソ連共産党指導部こそが、兄弟党の關係の準則を徹底的にぶちこわし、公開論争をひきおこし、兄弟党にたいして「非友好的な」態度をとり、「侮辱的な」攻撃

をおこなったという根本的事実には目をむける勇氣がない。コミユニケはまた、ソ連共産党指導部とその追隨者が、中国共産党とその他のマルクス・レーニン主義政党内に於いて攻撃をおこなった数えきれないほどの決議や声明、論文をいつたい破算にするのかしないのかというこのカギになる重要な問題にもふれる勇氣がない。

われわれは、ソ連共産党指導部とその追隨者のいつている公開論争の停止が、ほんとうはなにを意味しているかをよく知っている。それは、是非を区別せず、道理を無視して、修正主義者がマルクス・レーニン主義者に中傷と攻撃を加えることは許すが、マルクス・レーニン主義者には修正主義者に回答したり、批判したりすることを許さないということである。

いままでのところ、ソ連共産党指導部とその追隨者の攻撃と中傷にたいして、われわれはほんのわずかの論文を発表して答えただけで、まだまだ回答を終わるまでにはほど遠く、全然回答していないものもたくさんある。もし、かれらが例の反中国の決議や声明、論文をとり消すことをおおよげに声明せず、おおよげにあやまちを認めることもしないで、われわれを黙らせようなどと夢みても、それは絶対にできない相談である。大旦那方は、人をのしつても、あとでちよつと肩をすべめさえすれば、それで万事がすむとも思っているのだろうか。きみたちはのしりたいときにはのしり、やめたいときにはやめるが、われわれには道理にもとづいて回答するこ

とを許さないのだろうか。兄弟党の間に、このような不平等な、道理を無視した原則があるともいふのだろうか。

中国共産党は、公開論争の問題にたいする立場を、これまでも何回となく明らかにしてきたが、ここでいまいちど、全世界にはつきり宣言しておこう。それは、マルクス・レーニン主義と現代修正主義との間に原則的ながいがある以上、また現代修正主義者があればどこかずかずの中傷をわれわれにくわえておきながら、あやまちを認めようとしない以上、われわれには当然、かれらを公然と批判する権利があるということである。こうした状況のもとで、公開論争を停止しようとしても、それは絶対にできない。一日でもだめだ。一ヶ月でもだめだ。一年でもだめだ。百年でもだめだ。千年でもだめだ。一万年でもそれはだめだ。九千年で批判が終わらなければ、一万年でもかれらを批判してやる。

コミユニケはまた、「いちぶの党が他のいちぶの党の内部問題に干渉することに反対する」などといっている。これは例によって「中国共産党の分派活動を非難する」といっていることにはかならず、いい方を変えたまでのことだということは誰にでもわかることである。

「分派活動」に反対するといったこうした類の言葉は、われわれは国際共産主義運動のなかの最大の分裂主義者——フルシチョフからも何年間もきかされてきた。ほんとうに分派活動を

やっている者は、まちがいなくたしかにいる。それはフルシチョフとかれの門徒たちであり、フルシチョフが失脚してからは、フルシチョフなきフルシチョフ修正主義を固執している連中、共産党を社会民主主義政党に変質させようとしている連中である。かれらは、マルクス・レーニン主義にたいし、革命にたいし、世界の人口の圧倒的多数をしめるプロレタリアートと人民大衆にたいして分派活動をおこなっている。かれらは革命に反対し、プロレタリアートの革命的な団結を破壊するために、世界各国の共産党と労働者党の内部で、ありとあらゆる手をつかって顛覆活動をおこなっている。こうした行動によってかれらは、他人からはもちろんのこと、身内のものからさえもみはなされ、ついにはひと握りのものしか残らず、あわれな分派になりはてしてしまうのがオチである。ところが、これらの先生方の口から攻撃をうけている「分派」こそが、ほかでもなくマルクス・レーニン主義者であり、人民大衆の側に立っている革命派なのである。今度のモスクワのちっぽけな分裂会議そのものもつともひどい分派活動であることを、ここにきびしく指摘しておかなければならない。

中国共産党は、これまで自分の観点をかくしたことはない。世界各国の、革命を堅持し、あくまで帝国主義と各国反动派に反対しているあらゆる政党、集団、個人をふくむすべての勢力に、われわれは賛成し、これを支持するものである。レーニンが教えているように、原則的な政策こ

そ唯一の正しい政策である。われわれは、原則とひきかえに取り引きするようなことは絶対にしない。修正主義者がわれわれに悪口をあびせればあびせるほど、われわれの正しさはますます立証され、われわれはますますわれわれの原則的な立場を堅持しなければならない。この面でも、いわれわれ自身反省する必要があるとすれば、それは、ソ連共産党指導部が多くくの国ぐにの修正主義派に与えている支持に比べて、われわれがいちぶの国ぐにの革命的左派に与えている支持がまだまだ不十分であり、今後、この面での活動を大いに強化しなければならないということである。

率直にいつて、フルシチョフ修正主義の信者たちが互いに結託して世界各国のマルクス・レーニン主義者に反対するのは許しておきながら、世界各国のマルクス・レーニン主義者が団結し、互いに支持しあつて、フルシチョフ修正主義とその信者に反対する闘争をすすめることは許さないなどということは、これまでも通用しなかったが、今後とも永遠に通用しないだろう。

コミニケは、一九六五年のなかばにいわゆる新しい国際会議を開くようにとフルシチョフが去年下した命令について、いったいとり消したのか、それとも延期したのか、ひと言もふれていない。ただ「積極的、全面的に準備をする」だの、「適当な時期に開く」だのといった言葉をごしているだけである。同時にまた、「一九六〇年の会議に参加した八一の党の代表の予備的な

協議会議」を開くなどと主張している。いったいこれはどういう意味なのか。フルシチョフが一九六四年七月三十日に下した命令のなかでいつている例の「起草委員会」をあくまでかかえこんで放さないということではないのか。あるいは、フルシチョフがこの命令のなかで開けといつているあの八一の党の会議をまだやろうということなのか、それともまた何か新しいからくりをもてあそぼうということなのか。

われわれはソ連共産党の新しい指導部にはつきりと告げておかなければならない。きみたちは不法な分裂会議を開いたが、これは国際共産主義運動を公然と分裂させるきわめて重大な措置である。これによって生じる一切の重大な結果にたいしては、きみたちが全責任を負わなければならない、と。

きみたちが分裂会議を開いたために、兄弟党の団結の国際会議の開催に新しい重大な障害が設けられた。以前、われわれは、団結の会議の開催を成功させるために、障害をとりのぞく準備活動がおよそ四、五年は必要だと言ったが、いま考えてみると、少なくともその倍か、あるいはもっと長い期間が必要である。

(四) マルクス・レーニン主義と革命の軌道の上に団結しよう

ソ連共産党の新しい指導部は、ともかくも分裂会議を開いた。かれらはたぶん、これで帝国主義のご機嫌をとることができ、修正主義の「法的正統性」なるものをどうにか維持でき、また、政治的魔術として、それになんらかの欺瞞の役割をはたさせることができると考えているようである。しかし、このようなことをやってみたとところで、全世界のマルクス・レーニン主義者や革命的人民をおどしつけることもできなければ、あざむくこともできない。かれらはいままでも各国人民の革命闘争の発展をはばむことはできなかったが、今後はなおさらのことできないだろう。

毛沢東同志がつねづねわれわれに教えているように、ソ連をふくむ全世界の圧倒的多数の人民大衆は、革命を求めている。国際共産主義運動のなかでも、ソ連共産党をも含めて、圧倒的多数の共産主義者と幹部は革命を求めている。片意地に修正主義の道を固執し、あくまで反共、反人民、反革命をつらぬきとおそうとする石頭のフルシチョフのような連中は、ほんのひと握りのものにすぎず、ごくわずかのものにすぎない。いちぶの人びとは一時期、認識がはっきりしな

かつたり、ごまかされたりして、多少誤りを犯すことがあるかもしれない。しかし、かれらが革命を求めている限り、ことの真相を知り、修正主義の正体をみきわめたうえは、革命の実践の過程のなかで、最後にはかならず修正主義とたもとをわかち、マルクス・レーニン主義の側に立つものである。全世界の人口の九〇パーセント以上をしめる人民大衆と革命的な幹部はかならず団結できるものである。

もともとフルシチョフ修正主義を信じる者は、ますます少なくなっていた。今さら他人にフルシチョフなきフルシチョフ主義をむりやり信じこませようとしても、それがいつそう困難になるのは当然である。もともとフルシチョフの指揮棒に従う者はますます少なくなっていた。今さら他人をフルシチョフから受けついで指揮棒にむりやり従わせようとしても、それがいつそうご利益がなくなるのは当然である。ソ連共産党の新しい指導部が苦心さんたんして開いた分裂のちっばけな会議が、このように不細工なものになったということは、フルシチョフなきフルシチョフ修正主義のあやまりと破産を物語っており、またマルクス・レーニン主義政党とマルクス・レーニン主義者が現代修正主義に反対する闘争を堅持し、分裂会議に反対する闘争を堅持していることが、いかに重大な意義をもっているかを物語っている。

ともあれ、われわれは、ソ連共産党の新しい指導部があくまでも分裂会議を開いてくれたことに感謝しなければならぬ。こうした悪いことはよいことに変えることができる。このことはいちはやく人びとを助けて、ソ連共産党の新しい指導部が偽装しているマルクス・レーニン主義のペールをはぎとらせ、かれらの修正主義の正体を暴露させた。このことは人びとを助けて、ソ連共産党の新しい指導部の聞こえのいい、たくみな言葉のなかから、現象を通して本質を見てとらせた。このことは全世界の共産主義者と革命的な人民を助けて、フルシチョフ修正主義の発生と発展はけつして個々の人間の問題でもなければ、また偶然の現象でもないということをごとらせた。それは根深い社会的根源と歴史的根源をもっている。世界に帝国主義と反動派が存在し、階級と階級闘争が存在するかぎり、フルシチョフ修正主義はかならずあれこれの姿でふたたびあらわれるだろうし、フルシチョフ修正主義に反対する闘争もけつして終わりを上げることはない。

モスクワ分裂会議のコミニケは、各国の共産主義者は注意力を「さしせまった任務」なるものに集中すべきだといっている。さしせまった任務とはいったいなんだろうか。われわれからみれば、国際共産主義運動が直面しているもつともさしせまった任務とは、団結できるすべての勢力を団結させて、アメリカ帝国主義とその手先に反対し、各国反動派に反対し、世界平和、民族解放、人民民主主義、社会主義をめざす闘争の勝利をかちとることである。一九五七年の宣言と一九六〇年の声明とともに、当面の国際共産主義運動の主な危険は現代修正主義であると明確に

指摘している。帝國主義と各国反動派に反対する闘争を順調におしすすめ、國際プロレタリアートの団結をさらに強化するためには、ひきつづき現代修正主義者の正体を暴露して、真相がはっきりしない人びとを助けて真相をわからせ、革命の途上で決心がつかず迷っている人びとを助けて、革命的人民とともに前進させるようにしなければならない。また、帝國主義や各国反動派の片棒をかつぐ現代修正主義者を最大限に孤立させ、フルシチヨフ修正主義に反対する闘争を最後までおしすすめてゆかなければならない。

ソ連共産党の新しい指導部が分裂会議を開いたというこの重大な行為は、全世界のマルクス・レーニン主義政党とマルクス・レーニン主義者に主動的な権利を与えた。われわれには、ソ連共産党の新しい指導部の修正主義路線を公然と批判し、徹底的に暴露する理由がさらにできたし、いちだんと強力に各国人民の革命運動と革命的左派を支持し、マルクス・レーニン主義勢力のいっそう急速な発展を推進し、促進し、マルクス・レーニン主義と革命の軌道の上での國際共産主義運動の団結を推進し、促進する理由がさらにできた。

現在、國際共産主義運動における二つの路線の闘争はすでに新しい段階に入った。この重要なときにあたって、われわれはもういちど、ソ連共産党の新しい指導部に誠意をこめて警告したいと思う。きみたちは、なんの必要があつて、フルシチヨフが残していった首かせをわざわざ自分

の首にかけるのか？ なぜ改めて出なおそうとはしないのか？

われわれからみれば、もしきみたちが本当にマルクス・レーニン主義的兄弟党と革命的人民の側に立ち、共同して敵にあたり、団結して帝國主義に反対しようとするなら、それはむずかしいことでもあれば、むずかしくないことでもある。問題はきみたちがつぎのことをやるかどうかにかかっている。

分裂会議開催に関するいつさいの命令はいずれも誤りであり、不法なものであつたということをおおやけに声明し、分裂会議を不法に開いたことは誤りであつたことをおおやけに認めること。

全世界の共産主義者と全世界の人民にむかつて、フルシチヨフの修正主義、大国排外主義、分裂主義はいずれも誤りであつたことをおおやけに、しかも厳肅に認めること。

フルシチヨフの采配の下でソ連共産党第二十回大会と第二十二回大会が確定した修正主義路線と綱領が誤りであつたことをおおやけに認めること。

中国に反対し、アルバニアに反対し、日本共産党とその他のマルクス・レーニン主義政党に反対するソ連共産党指導部の言動はすべて誤りであつたことをおおやけに認めること。

今後けつしてフルシチヨフ修正主義のあやまちをくりかえさず、マルクス・レーニン主義とプ

ロレタリア国際主義の軌道にたちもどり、一九五七年の宣言と一九六〇年の声明の革命的原則の軌道にたちもどることをおおよけに保証すること。

意見の相違をとりのぞき、団結して敵にあたることを真にやりとげるためには、どうしてもこれらの原則的な問題を解決しなければならない。これらの原則的な問題を解決せず、国際共産主義運動の団結の道の上に置かれたこれらの重大な障害をとりのぞくのでなければ、いくら意見の相違をとりのぞき、団結をつよめるとか、公開論争を停止するとか、兄弟党の国際会議とか言ったところで、それはすべて絵空事である。

国際共産主義運動の全歴史から見れば、フルシチョフが演じたのはほんの短かな間狂言にすぎないし、ふるかぶの修正主義者ベルンシュタインやカウツキーの演じたそれに比べてはるかに短いものである。こんご、誰がフルシチョフなきフルシチョフ主義を演じようとも、それはフルシチョフの演じたものと大差のないほんの短かな一場でしかありえない。

全世界人民の革命闘争が勝利のうちに発展することは歴史の流れであり、帝国主義者や各国反動派、現代修正主義の意志によって左右されるものではない。帝国主義者や各国反動派、現代修正主義者はたえず、自分じしんの行動によって、みずからの反動的な正体を暴露し、つねに全世界のプロレタリアートと革命的人民の反面教師としての役割を果たすものである。全世界の九

〇パーセント以上の人びとがいずれは帝国主義反対の革命の戦線の側に立ち、国際共産主義運動の隊列のなかの九〇パーセント以上の人びとがいずれはマルクス・レーニン主義の軌道に沿って前進するものである、とわれわれは信じている。全世界の革命的人民、偉大な国際共産主義運動、偉大な社会主義陣営、偉大な中ソ両国人民は、いずれは一切の障害をとりのぞき、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義の基礎のうえに団結する、とわれわれは信じている。世界の革命事業の前途は限りなく光り輝いている。一切の妖怪変化のたぐいはきれいきっぱりと一掃されてしまおうであろう。

マルクス・レーニン主義を堅持する全世界のすべての政党と全世界のすべての革命的人民は、帝国主義、各国反動派、現代修正主義に反対する偉大な闘争のなかで団結しよう！ 全世界のマルクス・レーニン主義者と革命的人民は、世界平和、民族解放、人民民主主義、社会主義をめざす闘争のなかでかならずいっそう偉大な勝利をおさめるであろう！

モスクワ三月会議を評す

1965年 初版発行

定価 40 円

出版者 外 文 出 版 社
(北京阜成門外百万荘)

発行者 中 国 国 際 書 店
(北京 P. O. Box 399)

編号: (日) 3050-1115

3-J-700P
00017

